

II 目的

社会が薬科大学に付託する最も重要な課題は、「医療を通じて社会に貢献できる薬剤師の養成」である。本学薬学部薬学科は、これを教育の理念と最終目標の基本とし、薬剤師が医療の現場でその能力を十分果たし得るよう、豊かな教養と確かな薬学の基礎学力を身に付けさせるとともに、医療薬学領域の知識を広く修得させ、その上で実務に関する十分な実践的能力を培い、日常業務を間違いなく確実にこなせるのみならず、社会の要請に応え得る知識、技能、倫理観を備え、心構えの充実した、柔軟でバランス感覚に優れ、さらには患者や医療チームの構成員からも信頼される薬剤師の養成を目的としたものである。

一方、経済成長を果たして物質的に豊かになった我が国では、同時に急速な少子高齢化社会を迎え、人口構造の変化等に伴うさまざまな社会問題を抱える中で、国民の大きな関心は健康に向けられている。健康な生活は、病気の治療だけではなく、無病、さらには積極的に健康を維持増進することによってはじめて保つことができる。それを支えるのもまた薬剤師の重要な役割であり、高度医療の現場のみならず、地域医療、介護をはじめ、こうした国民の健康保持の支援、環境・衛生の向上に参加できる素養を体得した薬剤師の養成もまた目的としているところである。

本薬学部薬学科がその育成を目的とする薬剤師は、専門的知識・技能・態度に優れているのみならず、常に問題意識をもち、自発的な課題発見能力を持つ人材、問題解決を図りながら自己を高めることができる人材、生涯学習意欲をもつ人材、広い視野と社会性を備えた人材（チームワークが組める人材）、医療人としての品位を備え、その使命を果たすことができる人材、自分と他人の相互理解を図るための人間関係力をもつ人材（コミュニケーション能力の高い人材）と言い換えることができる。

本学は、薬学科、薬科学科ともに創設の理念の上に立ち、時代の要請を積極的に取り入れ、薬学に関わる教育と研究の推進と継承に努めている。